

コラム 東日本で発生した雪崩災害における土木研究所の技術支援

大西洋上で発達した低気圧の影響等で、西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に広い範囲で雪が降り、特に平成26年2月14日夜から15日にかけて、関東甲信及び東北地方で記録的な大雪となりました。これにより、東日本の各地で雪崩災害が発生しました。特に関東甲信越地域では、降雪や雪崩による道路の通行止めや車両の渋滞等、交通網の麻痺により孤立を余儀なくされた地域が多数発生しました。また、大雪が止んだ後も、気温が上昇すれば雪解けによる雪崩の危険性が懸念されることから、被害の長期化が懸念されました。

土木研究所は、国・地方自治体からの要請により、直ちに土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センターおよび寒地道路研究グループ 雪氷チームにおける雪崩災害の専門家4名（延べ25人・日）を派遣し、専門的見地から技術指導を行いました（派遣実績4件：図-1参照）。

土木研究所の専門家が助言した今後の雪崩発生の可能性に関する調査結果に基づいて、国・自治体による雪崩の応急対応が実施され、道路開通の早期実施等に貢献することができました（写真-1）。この活動が高く評価され、山梨県知事から雪崩対策に関する活動について感謝状を頂きました（図-2）。

記号/場所	2月													
	日	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
A 宮城県仙台市青葉区 国道48号開山峠														
B 埼玉県秩父市														
C 群馬県上野村														
D 山梨県甲府市(現地対策本部)														

図-1 雪崩災害に関する専門家派遣実績



写真-1 現地取材において、雪崩の現象について解説する土木研究所職員

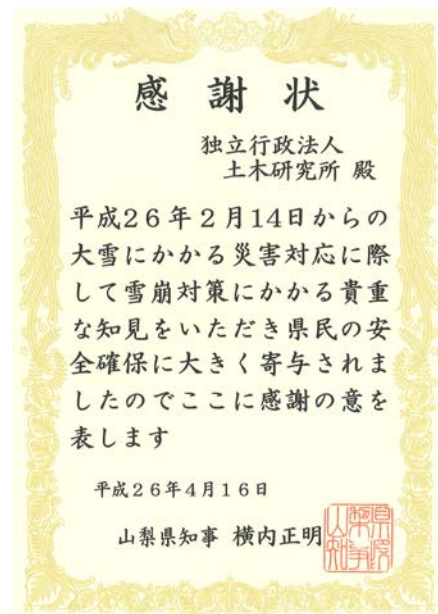


図-2 山梨県から戴いた感謝状